

防災教育チャレンジプラン

# すすめ！かぐてんぼう隊



2012年度

わがやネット

2013/02/09

## 目次

1. かぐてんぼう隊の歩み	1
2. プランの概要	3
3. チャレンジプラン	4
4. 苦労した点・工夫した点	7
5. 成果として得たこと	8
6. 活動の核	9
7. チャレンジプログラム	11
8. アンケート	15
9. 今回の対象者と今後の展望	19
10. プランの年間活動記録	21
11. 協力者・団体	22

## 1. かぐてんぼう隊の歩み

### (1) 「かぐてんぼう隊」の活動のきっかけ

わがやネットは、平成12年に福祉住環境コーディネーターの資格を取得した者の集まりとして発足しました。当初は、介護保険制度を利用した住宅改修の相談、助言等を行っていました。あるとき、利用者の方から「わしらは大地震が来たとき、家具の下敷きになって死ぬのか。」といわれたのが、「かぐてんぼう隊」の活動のきっかけになりました。

当時、私は大学院で、住環境整備の観点から、高齢者居住支援に関する研究をしていました。そこで、「家具が転倒しないよう固定する社会貢献活動をしよう！」そのために、「家具の転倒を防止する人」を作ろうと考えました。

平成16年12月、わがやネットのメンバー（建築士、ケアマネジャー、社会福祉士、大工等）と建築学科の大学生に呼びかけて、「かぐてんぼう隊」を結成しました。

### (2) 「かぐてんぼう隊」養成研修の開催

活動に参加した大学生は、知識はあっても現場に出た経験がないので、実践を学ぶ必要がありました。

初回の研修は1日で、午前中は、建物や家具の構造の知識、電動工具等の取扱いや隊員の安全管理、訪問先でのマナーについて学びました。午後は、壁の下地の探し方、木材にビスを打ち込む練習、飛散防止フィルムの張り方などの実習を行いました。その後は、実際に家庭で作業をしながら、経験を積んでいきました。

### (3) 「かぐてんぼう隊」の活動の評価

平成17～18年にかけて、NHK、名古屋テレビのニュースや、朝日、毎日、中日新聞が、活動の様子を紹介してくれました。

平成18年3月には、愛知県から「人にやさしい街づくり賞」、同年8月には、内閣府主催の「全国防災まちづくりフォーラム」で、最優秀賞、最多得票賞を受賞しました。これらの評価が自信につながり、さらなる展開へとつながっていきました。

また、防災まちづくりの推進として、平成21年度「防災白書」に掲載されました。翌年には、内閣府の「家具等転倒防止対策推進に関する検討委員会」の委員になり、全国に家具等の固定を広めるお手伝いをしています。

### (4) 地域に根差した活動展開へ

平成18年12月、名古屋市守山区において、社会福祉協議会と防災ボランティアネットワーク（以下「チーム守山」といいます。）からの依頼を受けて、「かぐてんぼう隊」養成研修を行いました。翌年3月からは社会福祉協議会の委託事業として、チーム守山と合同で耐震留具サービスを行い、その後4年間にわたり活動しています。昨年よりチーム守山

は、戸建ての住宅を中心とした独自の活動を開始しています。チーム守山のリーダーから、メンバーのモチベーションの維持に、この活動は役に立っていると聞いています。利用者の方の感謝の言葉が、やりがいや喜びになり、それが活動の継続へとつながっています。

上記活動の他、町内会や消防署などと連携して、住民に普及啓発を行っています。

#### (5) 新たな展開へ

～家具等の転倒防止対策推進連絡会の開催～

家具固定の普及啓発のため、和歌山県、和歌山市、大津市、三重県、徳島市、北海道（土別市）などで講演をしました。講演では、「地域でどのように活動をしていけばいいのか、お金はどうしているのか」といった質問が必ずあります。各地域の活動の後方支援のため、平成 23 年 2 月に、家具の転倒防止対策に関わった自主防災会などと、「家具等の転倒防止対策推進協議会（連絡会）」を開催しました。

#### (6) 家具を固定する活動から、地域の見守りへ

「かぐてんぼう隊」の活動は、単に家具等の固定の作業をするのではなく、地域のつながりや助け合いの気持ちを大切にしています。

高齢者宅に入ることから、民生委員や町内会の協力は欠かせません。平成 17 年に活動した際、ある民生委員から、「担当している独居高齢者宅に今まで入らせてもらえなかったが、家具の固定をきっかけに、生活をみることができました。」といわれました。

「かぐてんぼう隊」の中には、「おしゃべり隊」がいます。メンバーの介護福祉士の発案で、作業中の不安を取り除くために、利用者の方のお話を聴く担当を作りました。

「かぐてんぼう隊とおしゃべり隊」は、孤立死が社会問題となっている現在において、独居高齢者宅の見守りにつながると期待しています。今後も、これらの活動を通して、地域の見守り体制づくりに貢献していきたいと考えています。

#### (7) 「かぐてんぼう隊」学校教育へのチャレンジ

今回、防災教育チャレンジプランにおいて、新たな取り組みとして、高校生、小学生（高学年・低学年）を対象に、講座及び実習を企画し、出前授業を行いました。

「かぐてんぼう隊」の活動は、多くの方々の出会いと、協力なくしては実現しませんでした。ご協力くださった関係者、団体の皆様方に感謝いたします。

## 2. プランの概要

実践団体名	わがやネット		
連絡先	052-837-0309		
プランタイトル	すすめ！かぐてんぼう隊		
プランの対象者*	小学生（低学年） 小学生（高学年） 高校生 社会人・一般	対象とする 災害種別*2	地震

### 【プランの目的・ここがポイント！】

大地震発生時において被害を少なくするためには、家具等の転倒防止対策を行うことはとても有効な手段です。

本プランでは、その推進を目的に小学生や高校生を対象とした家具等転倒防止対策の講座及び実習を行いました。

また、社会人・一般として、災害ボランティア（既に家具等転倒防止対策の講座及び実習を受講）に出前授業の講師として実践実習を行いました。

### 【プランの概要】

- ・小学校、高等学校への出前授業の実施
- ・学童保育への講座及び実習
- ・社会人、一般の講師育成のための実践実習
- ・地域への展開事例

### 【期待される効果・ここがおすすめ！】

子どもたちは、講座及び実習を通して、自分の身は自分で守ること（小学生・高校生）、家族や近所の住民を守ること（高校生）を素直に理解してくれました。子どもたちが家庭に帰って、両親、祖父母などに、家具等の転倒防止対策の必要性を伝えてくれると思います。また、近所の住民にも伝えて、地域への見守りに繋がることを期待しています。

“子どもを主体にする”ことがおすすめです。飛散防止フィルムを貼ったり、壁の下地を探したりなど体験することで、子どもたちは関心を持ち、活き活きとした表情になりました。

授業の中で、地震の際に家具が転倒する映像を見せることは、“我が事意識”を持つことに最も有効でした。また、夏休みに自分の部屋の平面図や家具の配置をあらかじめ描いてきてもらった高校生の宿題も効果的でした。

### 3. チャレンジプラン

#### 3-1 学童保育（小学生低学年）

タイトル	すすめ！かぐてんぼう隊養成講座
実施月日（曜日）	8月27日（月）
実施場所	半田市 放課後児童クラブ「こどものいえ」
担当者または講師	講師：児玉道子、中村廣一、吉田眞先 記録担当：水谷芳孝
所要時間	8時間「午前9時～午後6時」
プログラム形式	体験学習
活動目的	知識を習得し、行動できる人を育む
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	講座と実習 ・家具等転倒防止対策の必要性をクイズと映像で学ぶ ・避難動線の確認 ・建物内の危険な箇所を点検 ・木造壁の下地を探す ・ガラスに飛散防止フィルムを貼る ・建物内の家具を固定し、ガラスにフィルムを貼る（実践） ・安否確認の方法
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材（児玉、中村、吉田） ・道具、材料等 下地探し用ボードパネル ガラス飛散防止フィルム、サッシのミニ版（オリジナル） L型金具、補強板、消耗品、家屋、家具のミニチュア
参加人数	16名
成果と課題	【成果】「こどものいえ」責任者のコメント 指導員室の食器棚の固定を手伝ったAちゃんは、何でも自分でやりたい子ですが、おうちでは思うようにさせてもらえず、口癖は「面倒くさい」でした。そんな彼女が、大人でも大変と思う作業をさせてもらい、そして「褒めてもらう」ことで素敵な笑顔を見せてくれたことが印象的でした。 「自分で考える」防災教育、とても興味深く、私どもの活動とコラボさせて頂ければ有難く存じます。 【課題】 今回は主催者が企画運営をしましたが、次回からは子供たちが主に企画ができるように仕掛けてみたいと思います。
成果物	子どもたちからの絵手紙、記録映像（子どもたちの言葉）

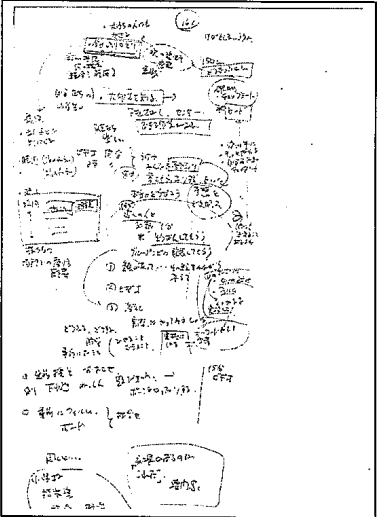
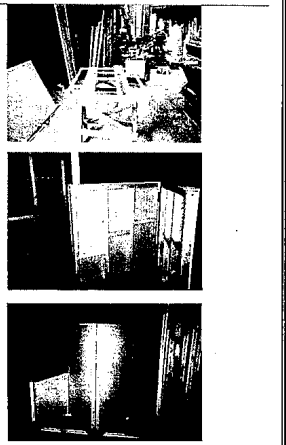
#### 3-2 小学生（高学年）

タイトル	すすめ！かぐてんぼう隊養成講座
実施月日（曜日）	9月13日（木）
実施場所	名古屋市立小学校（6年生）
担当者または講師	講師：児玉道子、中村廣一、吉田眞先 記録担当：水谷芳孝
所要時間	90分「2コマ×45分」
プログラム形式	体験学習
活動目的	知識を習得し、行動できる人を育む
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	講座と実習 ・家具等転倒防止対策の必要性をクイズと映像で学ぶ ・避難動線の確認 ・木造壁の下地を探す ・ガラスに飛散防止フィルムを貼る ・shake outの紹介・安否確認の方法
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材（児玉、中村、吉田） ・道具、材料等 下地探し用ボードパネル ガラス飛散防止フィルム、サッシのミニ版（オリジナル） L型金具、補強板、消耗品、家屋、家具のミニチュア
参加人数	15名
成果と課題	【成果】児童・関係者のコメント 児童B：「フィルム、もう一回やってもいいですか？」 児童C：「木できていて、壁も土だけど、固定することができる？」 担任教諭：「とても良かった。僕たちが勉強になりました。」 教育委員会：「授業でやるのは難しいと思った。」 校長： ・小学校の授業としては、問題がまだまだある。 ・イベントとしては、楽しいし興味はわくと思う。 ・授業計画書を5回くらい叩かないといけないと思う。 ・学校の授業でやるより、生涯学習センターの親子セミナーなどで、親と子で学んだ方が効果的だと思う。 【課題】 小学校の授業でチャレンジをさせてもらえたことは良かった。 頂いたコメントを今後につなげたいと思います。
成果物	関係者のコメント、記録映像


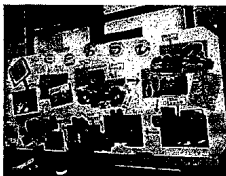

3-3 高校生

タイトル	すすめ!かぐてんぼう隊養成講座
実施月日(曜日)	9月21日(金)、25日(火)、26日(水)
実施場所	名古屋大学教育学部附属中学・高等学校(2年生の3クラス)
担当者または講師	講師:児玉道子、中村廣一、吉田眞先 記録担当:水谷芳孝
所要時間	10:40~12:30「2コマ×50分」
プログラム形式	体験学習
活動目的	知識を習得し、行動できる人を育む
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	講座と実習 ・授業前の宿題(部屋の平面図と家具の配置図を描く) ・家具等転倒防止対策の必要性を映像と座学で学ぶ ・避難動線の確認 ・木造壁の下地を探す ・ガラスに飛散防止フィルムを貼る ・shake outの紹介 ・安否確認の方法
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材(児玉、中村、吉田) ・道具、材料等 下地探用ボードパネル ガラス飛散防止フィルム、サッシのミニ版(オリジナル) L型金具、補強板、消耗品、建築士二次試験対策の方眼紙
参加人数	120名(40名×3クラス)
成果と課題	【成果】副校長のコメント 次年度は、住居領域が中学2年生であるので、そこをお願いしたいです。中2も高2と同じく前期(4月~9月)の授業です。6月下旬から7月中旬を希望します。高校生は実習をすると「試験前は勘弁」とよく言いますが、気になさらないで下さい。「家庭科は実習する教科だ」と言っています。 【課題】 1クラスが40人と人数が多いため、全員が体験することができませんでした。次回は、ボードパネルやサッシミニ版をそれぞれ4台(10人に1台)に増やします。
成果物	高校生のアンケート

4. 苦労した点・工夫した点

<p>プランの立案と調整で苦労した点工夫した点</p>	<p>■苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「小中高の学校教育の現場」は、私たちにとって“未知の領域”でした。授業計画書(案)の作成に苦労しました(図1)。</li> </ul> <p>■工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、協力してもらえそうな方々に声をかけました。</li> <li>・授業計画書(案)の作成において、小学校校長、名古屋市教育委員会、中・高校の副校長、義妹(横浜の小学校教諭)から助言を頂きました。</li> <li>・小学生に分かりやすく伝えるよう工夫しました。</li> <li>・小学生低学年、高学年の身長に合わせて、ボードパネルを製作しました。</li> <li>・今回のチャレンジは、学校教育での取り組みとして実施しました(図2)。</li> <li>・やるべきこと、伝えたいことは山ほどありますが、与えられた授業時間内で、防災中の「家具の固定」にテーマを絞りました。</li> </ul>
<p>準備活動で苦労した点工夫した点</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;">  </div> <div style="width: 35%;">  </div> </div>
<p>実践に当たって苦労した点工夫した点</p>	<p>■全国展開へ</p> <p>この授業プログラムが全国で使えるかどうかは分かりませんが、地域の状況に応じて、手を加えて行く必要があると思います。画一化された授業はきっと面白くないと思います。今回のチャレンジを踏み台にして、全国で広がっていただければ幸いです。</p>
	<p>図1 授業計画書(素案)      図2 ボードパネル</p>

## 5. 成果として得たこと

<p>成果として得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生のアンケート（自由記述欄）に、貴重な意見を書いてもらえました。</li> <li>・学童保育の小学生からは、逆に“教えてもらった”ことが収穫でした。大人とは違った視点の声が参考になりました。</li> <li>・多くの人たち（教職員・市役所・NPO・災害ボランティア・増改築相談員、大学教授など）を活動に巻き込むことによって、次の展開のきっかけとなりました（図3）。</li> </ul>  <p>図3 協力して下さった皆さん</p>
<p>全体の反省・感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の学校で出前授業を実施しましたが、事前の授業内容等の打合せや、意見交換が成功のカギを握っていることが分かりました。防災教育に“熱心な学校”と“丸投げ・お任せ・様子見の学校”とでは、成果が全く違います。</li> <li>・今後の課題としては、             <ol style="list-style-type: none"> <li>①「防災」の各論である「家具等固定」に関する内容を、学校教育へどのように落とし込めるか、</li> <li>②どの科目で実施するのが有効かなどです。</li> </ol> </li> <li>・今回の活動を通して、継続のためのキーワードが見えてきました。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①“面の展開”（社会人等の地域での活動）</li> <li>②“縦の継承”（社会人又は大学生が高校生へ、高校生が中学生へ）</li> </ol>             “面の展開”は、社会人や大学生を中心に今まで実施していましたが、学校教育では“縦の継承”がカギを握っていると思いました。         </li> </ul>
<p>今後の継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、高校2年生を対象に出前授業を行いました。次年度は中学生を対象に依頼があり、実施する予定です。</li> <li>・学童保育は、責任者から継続的に実施するよう依頼があります（図4）。（次年度は、子どもたちによる防災に関する企画会議ができるように、提案してみたいと思います。）</li> </ul>   <p>図4 ミニミュンヘン「こども応援プロジェクト」の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校は、今回の経験を踏まえ、再チャレンジをする予定です。</li> </ul>

## 6. 活動の核

### (1) コンセプト

#### 防災対策としての位置づけ

- ・国内外で大規模な災害が起きている昨今、災害に備え大切な命を守るためには、被害を減らす取り組みを行う必要があります。
- ・本授業では、家具等の転倒防止の必要性を学び、その対策の具体的な方法を実習で体験します。
- ・自分の身は自分で守り(自助)、家族やご近所の住民を守る(共助)という「意識」と「行動できる」人材の育成を目指します。

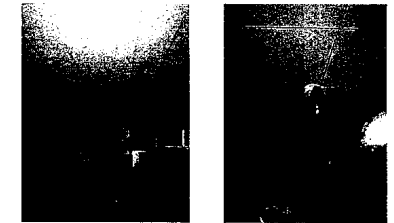


図5 活動の様子

家具を壁に固定している様子(左)  
火災警報器を取付けている様子(右)

自助から共助へ。家具の固定をきっかけに、地域住民のための見守り支援ができます。

### (2) 強力なメンバーと共に

(家具等転倒防止対策・推進連絡会、技術研究会の参加者)



図6 強力な仲間

建築士、介護福祉士、ケアマネジャー、薬剤師、大工（増改築相談員）、水道屋、サッシ屋、元トヨタグループ社員、ケーブルテレビディレクター（元NHKカメラマン）、名古屋市職員（消防局、住宅都市局）、社会福祉協議会職員等（図6）。

報告・連絡・相談を行い、“みんなで活動する”意識が高まりました。

今回の活動ができたのは、この多彩なメンバーのお陰です。それぞれの立場、技術、ネットワークで実行することができました。

### (3) 出前授業（講座）の実施

#### 「すすめ！かぐてんぼう隊養成講座」

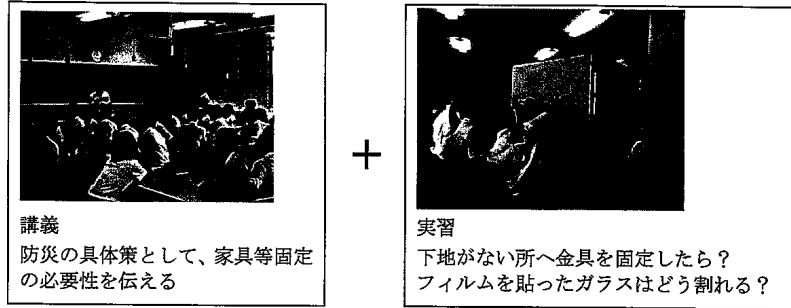


図7 出前授業の様子（高校生）

授業計画書に沿って実施しました。学校で普及させるためのプログラムのたたき台ができたかと思います。導入は、当日の教科担当の先生から「阪神淡路大震災のボランティア体験談」が、生徒たちの気を引き締めました（図7）。

## 7. チャレンジプログラム

### 7-1 小学生（低学年）

#### 業計画書（シラバス）（案）

事業所名：放課後児童クラブ 「こどものいえ」（NPO 法人菜の花）

授業名：（出前授業）小学生のための家具等の転倒防止対策のススメ

日程：平成24年8月27日（月）

時間帯：9:00～12:00（13:00～18:00）

ご担当者：新実 晃代 様

授業方法：お話と実演

#### ★授業の目的（ねらい）：

国内外で大規模な災害が起きている昨今、災害に備え大切な命を守るためにも、被害を減らす取り組みを行わなければなりません。

本出前授業では、家具等の転倒防止の必要性を学び、その対策の具体的な方法を実演します。

自分の身は自分で守る（自助）という「意識」と、災害時に「行動できる」ことを目指します。

#### ★授業の流れ：

##### ①お話を「聞く」そして「考える」

- 大地震が来たとき、部屋の中はどうなるでしょう？
- 防災（家具固定に関する）ビデオを見て考えてみましょう。
- 何が落ちて（倒れて）来ましたか？
- そのときあなたは「どうなる？」「どうする？」

##### ②実演を「見る」そして「関心を持つ」

- お家の壁は、どうなっているでしょう？
- 壁の中に木（下地）のあるところはどこかな？
- 木のあるところに金具でとめます。
- 壁に傷が付かない「とめ具」もあるよ。
- ガラスが割れるのを防ぐためにフィルムを貼ります。

##### ③まとめ

- 自分の身は自分で守ろう！今できることは？
- 地震が起きたときの、家の中の状態をイメージすることが大切です。
- 普段から自分のお部屋を片付けて、本棚などが自分や床に倒れてこないように、家具の配置を工夫しましょう。

#### ★準備

機材：ビデオ、テレビ

道具：電動ドライバー、ブルーシート、壁パネル（90×180 2面）

飛散防止フィルム、その他（関連道具）



7-2 高校生

防災教育 出前授業 学習指導案

家具等の転倒防止対策のススメ

- 日時：9/21(金)、25(火)、26日(水)  
3・4限(10:40~12:30)
- 場所：名古屋大学教育学部附属中・高等学校 技術教室(南棟 1階)
- 対象生徒：高校2年生 各クラス40名 合計120名
- 授業者：わがやネット(代表児玉道子、吉田、中村)、鈴木喜晴

5. 本時の学習活動

(1) 目標

国内外で大規模な災害が起きている昨今、災害に備え大切な命を守るためには、被害を減らす取り組みを行う必要がある。本授業では、家具等の転倒防止の必要性を学び、その対策の具体的な方法を実習で体験する。自分の身は自分で守り(自助)、家族やご近所の住民を守る(共助)という「意識」と「行動できる」人材の育成を目指す。

(2) 授業形態

- ・講義(3限目)と実習(4限目)

(3) 授業計画

	時間配分	学習内容	学習活動	学習指導上の留意点(○) 評価の観点と方法(◎)
展	10:40 ~ 10:50 (10分)	本時の授業概要を知る	・夏休みの課題「自分の寝る部屋の平面図」を机上へ出してもらい ・本時の活動内容を知る	○自分の課題を確認させる ○ゲストの先生方を紹介する
	10:50 ~ 11:00 (10分)	被害状況	・近年発生した大地震における被害状況を理解する。 ・被害が一番多い「原因」「年齢」「性別」を理解する。 ・家具を固定する「器具の種類」と「効果」を理解する。	○プロジェクターを利用して家具転倒状況を説明する。 ○原因は「家具類の転倒・落下物によるものが最も多く」、年齢は「60歳以上」で、性別は「女性」に被害が多いことを理解させる。 ○器具の種類とその効果を、実物を示して理解させる。
開	11:00 ~ 11:30 (30分)	自分の部屋の安全対策	・自分の寝る部屋の安全な対策について検討する。 ・課題の右側に検討して安全対策を施した家具の配置を記入する	○課題を使って現状を見直し、安全な家具配置を考えさせる。 ◎現状の配置で危険箇所を見つけることが出来たか。 ◎現状より安全に家具を配置して平面図に記入出来たか。
	10分	放 課 (休 み 時 間)		
開	11:40 ~ 11:55 (15分)	家具固定の実習	・建物と家具の下地の探し方を教えていただき、実習する。	○家具固定には適切な場所があることを知らせ探させる。 ◎固定器具にあさわしい場所を見つけることが出来たか。

	11:55 ~ 12:10 (15分)	飛散防止フィルムを貼る実習	・ガラスの飛散防止フィルムの張り方の手本を見せていただき、実習する。  ・「家具等の転倒防止対策」と「地域の見守り」について理解する。	○空気が入らないようにするには、「中性洗剤数滴のスプレー水で、十分に水分を噴霧」したら良いことを理解させ、実習させる。 ◎フィルムを美しく貼ることが出来たか。 ○自分の家の対策と同様に地域の見守りも大切であることを理解させる。
	12:10 ~ 12:15 (5分)	地域の見守り		
まとめ	12:15 ~ 12:30 (15分)	片付けアンケート	・実習用具を片付ける ・授業の振り返りアンケートに答える。	○安全に気をつけて用具を片付させる。 ◎本時の授業の目標が達成できたか。(アンケートによる)

(4) 準備

材料：平面図作成のための方眼紙

機材：プロジェクター、スクリーン、パソコン

道具：電動ドライバー、ブルーシート、壁パネル(90×180 4面)

飛散防止フィルム、その他(関連道具)

S2 家庭基礎・情報科 夏休みの課題

国内外で大規模な災害が起きている昨今、災害に備え大切な命を守るためには被害を減らす取り組みを行わなければなりません。

高校2年生の皆さんには、9月に、わがやネットの皆さんによる出前授業を実施します。家具等の転倒防止の必要性を学び、その対策の具体的な方法を実習で体験します。自分の身は自分で守り(自助)、家族やご近所の住民を守る(共助)という「意識」と「行動できる」人材の育成を目指します。

そこで、あなたの現状を自分で知るべく、下記の課題をしてください。提出は休み明け最初の情報(または家庭基礎)の授業時です。

記

- 課題：別紙方眼紙に次の①②をわかりやすく図示する。方眼紙は2つ折りにする。  
①方眼紙の左側に、自分が寝る部屋の平面図を現状の家具の配置が入った平面図を描く。(教科書p141参照。窓、扉等入り口も記入する。)  
②方眼紙の右側に、①で描いた自分が寝る部屋の家具なしの平面図を描く。入り口は記入する。

- 留意点：方眼紙の縮尺は1/20。1マス5mm=10cm  
(例) 6畳間は350cm×260cm(35マス×26マス)

3 この課題の評価の観点：

- 1) 提出日に提出する
- 2) 縮尺、平面図の大きさが正確に描いてある。
- 3) 定規とマーカー(サインペン)を使って描いている。
- 4) 部屋の様子がわかるように、色鉛筆で色がつけてある。

1)～4)の観点で点数を付けます。現在の家具の配置が安全かどうかは評価の観点には入りません。

※家具の寸法を記入すること。

4 提出日と防災授業日

	提出日	防災授業日
S 2 A	8 / 3 1 (金)	9 / 2 1 (金)
S 2 B	9 / 4 (火)	9 / 2 5 (火)
S 2 C	8 / 2 9 (水)	9 / 2 6 (水)

8. アンケート

8-1 内容

防災教育アンケート(高校生)

Q 1. 授業の内容は、必要性を感じるものでしたか？ (1つだけ☑)

- ・講義について
  - 大いに感じる
  - 感じる
  - あまり感じない
  - 全く感じない
- ・実技について
  - 大いに感じる
  - 感じる
  - あまり感じない
  - 全く感じない

Q 2. 授業の時間は適切でしたか？

- 長すぎる
- やや長い
- ちょうどいい
- 短い

Q 3. 授業の内容は理解できましたか？

- 理解できた
- 概ね理解できた
- 理解できなかった
- 全く理解できなかった

Q 4. Q 3で「理解できなかった」「全く理解できなかった」と答えた方にお尋ねします。理解できなかったのはどれですか？

(いくつでも☑)

- 近年発生した大地震における被害状況
- 被害が一番多い「原因」「年齢」「性別」
- 家具を固定する「器具の種類」と「効果」
- 寝室の安全な対策
- 建物と家具の下地の探し方
- ガラスの飛散防止フィルムを張るポイント
- 「家具等の転倒防止対策」と「地域の見守り」

Q 5. もし、あなたがこの授業を担当するとしたら、何を伝えたいですか？

(いくつでも☑)

- 家具類の転倒防止対策の必要性
- 家具を固定する「器具の種類」と「効果」
- 自分の家の中の安全を家具の配置から点検し、検討する方法
- 壁や家具の下地などの構造を知る(下地の探し方)
- ガラスの飛散防止フィルムの張り方
- 地域でボランティア活動をする方法
- その他 ( )

Q 6. その他、意見・要望などがあれば、何でも記入してください。

8-2 アンケート結果

H24.9.26

防災教育アンケート集計(高校生)

わがやネット

Q1. 授業の内容は、必要性を感じるものでしたか？

・講義について

	9/21	9/25	9/26	計
<input type="checkbox"/> 大いに感じる	22	24	20	66
<input type="checkbox"/> 感じる	15	14	17	46
<input type="checkbox"/> あまり感じない	0	2	0	2
<input type="checkbox"/> 全く感じない	0	0	1	1
(未記入)	1	0	1	2
計	38	40	39	117

・実技について

	9/21	9/25	9/26	計
<input type="checkbox"/> 大いに感じる	25	23	23	71
<input type="checkbox"/> 感じる	13	16	14	43
<input type="checkbox"/> あまり感じない	0	1	0	1
<input type="checkbox"/> 全く感じない	0	0	1	1
(未記入)	0	0	1	1
計	38	40	39	117

Q2. 授業の時間は適切でしたか？

	9/21	9/25	9/26	計
<input type="checkbox"/> 長すぎる	1	0	2	3
<input type="checkbox"/> やや長い	6	11	3	20
<input type="checkbox"/> ちょうどいい	30	28	33	91
<input type="checkbox"/> 短い	0	1	0	1
(未記入)	1	0	1	2
計	38	40	39	117

Q3. 授業の内容は理解できましたか？

	9/21	9/25	9/26	計
<input type="checkbox"/> 理解できた	22	18	28	68
<input type="checkbox"/> 概ね理解できた	15	22	9	46
<input type="checkbox"/> 理解できなかった	0	0	0	0
<input type="checkbox"/> 全く理解できなかった	0	0	1	1
(未記入)	1	0	1	2
計	38	40	39	117

Q4. Q3で「理解できなかった」「全く理解できなかった」と答えた方にお尋ねします。

理解できなかったのはどれですか？(複数選択可)

	9/21	9/25	9/26	計
<input type="checkbox"/> 近年発生した大地震における被害状況	0	0	1	1
<input type="checkbox"/> 被害が一番多い「原因」「年齢」「性別」	0	0	1	1
<input type="checkbox"/> 家具を固定する「器具の種類」と「効果」	0	0	1	1
<input type="checkbox"/> 寝室の安全な対策	0	0	1	1
<input type="checkbox"/> 建物と家具の下地の探し方	0	0	1	1
<input type="checkbox"/> ガラスの飛散防止フィルムを張るポイント	0	0	1	1
<input type="checkbox"/> 「家具等の転倒防止対策」と「地域の見守り」	0	0	1	1
計	0	0	7	7

Q5. もし、あなたがこの授業を担当するとしたら、何を伝えたいですか？(複数選択可)

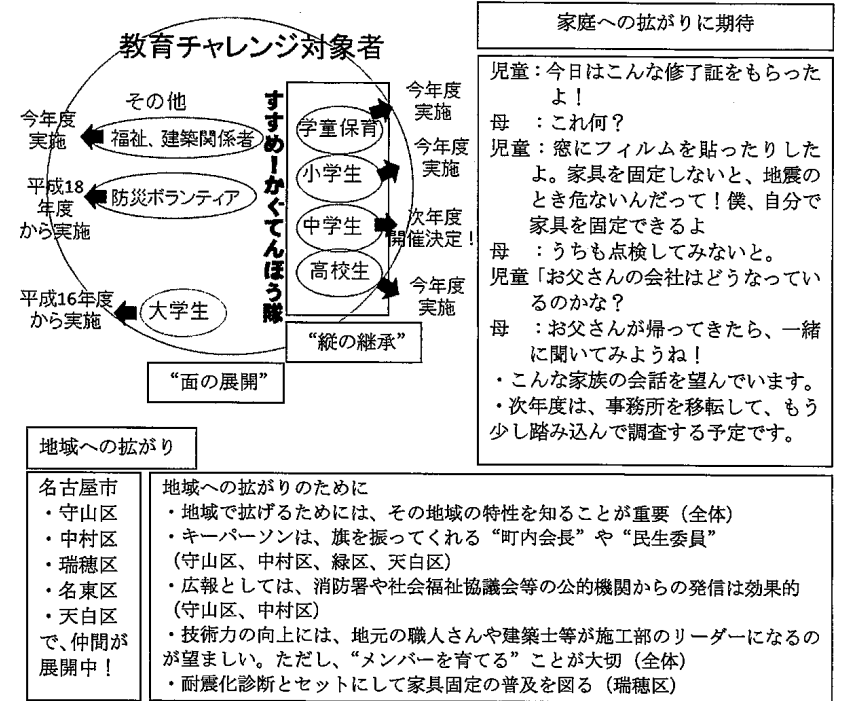
	9/21	9/25	9/26	計
<input type="checkbox"/> 家具類の転倒防止対策の必要性	25	25	18	68
<input type="checkbox"/> 家具を固定する「器具の種類」と「効果」	20	25	11	56
<input type="checkbox"/> 自分の家の中の安全を家具の配置から点検し、検討する方法	18	17	13	48
<input type="checkbox"/> 壁や家具の下地などの構造を知る(下地の探し方)	14	13	15	42
<input type="checkbox"/> ガラスの飛散防止フィルムの張り方	14	23	17	54
<input type="checkbox"/> 地域でボランティア活動をする方法	6	8	10	24
<input type="checkbox"/> その他	0	2	4	6
計	97	113	88	298

Q6. その他、意見・要望など（一部抜粋）

- ・下地を探すとかフィルムを張るとかやったことがないことだったけど、自分の身を守るためにとても大切だと思いました。
- ・高校生防災セミナーの発表のときに参考にさせていただきたいです！！
- ・家に帰って親に話そうと思いました。
- ・母が西歐的なインテリアが好きで、家具の転倒防止の金物などを付けると、見栄えが悪くなってしまうので、あまりやりたがりません。デザイン的にもおしゃれな転倒防止グッズがあれば教えていただきたいです。
- ・少し前に自分の部屋のガラスに飛散防止フィルムを貼ったとき、空気が入ってしまった。今回のこの方法を知っていたら楽だったと思う。おばあちゃんの家のガラスには貼ってなかったので、教えてあげたい。
- ・親と話し合っただけで家具の固定や配置をしたいと思います。そして、周りの人にも伝えようと思いました。
- ・体験型の授業で楽しかったし、防災について興味が湧いてきました。
- ・小さなスペースに高い本棚やなにやらで詰まっている私の部屋はとても危険なことがわかった。しかし、自助のため部屋のインテリアを変えることは正直難しい。なぜかという、必要なものが詰まっているからだ。自分の身を守るためには、あとは物を固定するしかないと思った。
- ・ガラスの飛散防止フィルムを張るのが楽しかったです。地震のシミュレーションの映像を見て、地震の怖さを改めて実感しました。
- ・転倒モデルケースの映像を見て、家具転倒の危機感も募りました。我が家は固定などしていないので、行おうと思います。それと同時に、自分の近所に広めていけるとよいと思いました。
- ・ガラスの飛散防止フィルムの体験が時間の関係で出来なかったもので、少し残念です。家具の選び方とか配置とか見直していきたい。
- ・地震の体験があまりないので、最初に地震はこんなにも怖いものだを見せてから、固定の必要性とかを教えるのもっといいと思う。
- ・実技は家でできる機会がなかなかないので、貴重な体験でした。今度実践してみたいと思います。プリントの小さい字が少し読みにくかったです。
- ・固定とかは下地を探さないといけないけど、ガラスにフィルムはるなら自分でもできると思う。家具がこんなにケガにつながると思わなかった。
- ・地震の被害を知るだけでなく、現実的な対策を身をもって知ることができて勉強になりました。実技も初めての経験で、楽しく学ぶことができました。
- ・家具の配置ゲームをしてみたい。どうするのがベストの配置でしょう？みたいな。
- ・え！？高校で？？ やるなら大学生で
- ・かなりためになる授業でした。家に帰って全体を見直そうと思います。実際に体験できるのが良かったです。
- ・我が家はあまり防災していないので、心配になった。多分ベッドに直で本棚が落ちてくるので、寝てる間に死んじゃうかもなあ、こわいなあ。

9. 今回の対象者と今後の展望

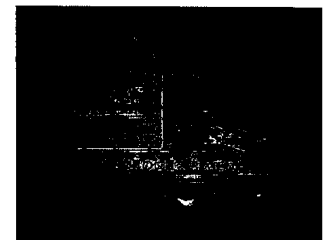
9-1 展開のイメージと地域活動の具体例



9-2 フォロアアップ

図8 今回の対象者と今後の展望

(1) 学童保育の子どもたち



喜ばれることが喜びになる。喜ばれることを自分もしたい！  
 家具等の固定を通して、素敵な連鎖が生まれました。

図9 学童保育の子どもたちと、修了証及び教材

- ・8月27日に出前講座を実施した後、12月18日に「かぐてんぼう隊修了証」を持って訪問しました(図9)。
- ・子どもたちは私のことを忘れていましたが、「フィルムを貼った」「家具を固定した」と伝えると、「あー」と気づいてくれました。
- ・講座当日、講師の一人が仮設テントの骨で頭を怪我しました。そのことを覚えていて、「あのおじちゃん大丈夫だった?」と心配してくれました。
- ・修了証とともに、教材(記念品)として家屋、家具のミニチュアを贈呈しました。
- ・贈呈式の後にそれで遊んでいた男の子が、「あれ?冷蔵庫がない、あのときあったのに!」と家具の種類まで覚えていました。ばれていました(汗)
- ・小学校でも感じましたが、男女問わず“家や家具に関心が高い”ことに気づきました。
- ・子どもたちの関心を掴んだことは、確かに実感できました。
- ・次への展開のために、“わがやネット”は事務所を移転して次年度も関わっていく予定です。

## (2) 社会人・一般



図10 社会人・一般での展開の様子

- ・今回のチャレンジでは、出前授業の講師養成を兼ねて出前授業を行いました。
- ・家具等転倒防止対策・推進協議会、技術研究会での活動発表(中村区・吉田)に影響を受けた増改築相談員(大工、建築士)瑞穂支部の世話人が、耐震化と家具固定の推進を図るように、建築関係の仲間に声をかけたようです(図左)。
- ・愛知県増改築相談員連絡協議会主催のシンポジウムで、「家具転倒防止で全住民の生活と命を守る。実例から、地域の取り組みを広めよう!」を開催しました(図中)。
- ・行政の制度として取り組んでいる先進事例の視察に、町内会長、増改築相談員、元マスコミ関係者と“青春18きっぷ”で神戸市へ行きました(図右)。
- ・家具等転倒防止対策・推進協議会、技術研究会では、今後、デザイン公募や推進活動をたたえる表彰などを設けたいと思っています。

## 10. プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	準備活動	実践活動
2月	2/9 推進連絡会(注1)で参加報告、協力要請 2/25 福祉住環境コーディネーター・コミュニティにてPR		
3月	3/3 愛知県建築士会豊田支部主催「家具の転倒防止対策から地域の見守り支援に向けて」講演、建築士、防災ボランティア、一般向け普及啓発を実施 3/14 技術研究会(注2)で活動方針を報告		
4月	4/10 名大教育学部附属高校2年生対象に出前授業の開催が決定 4/12 推進連絡会で進捗状況を報告		
5月	5/9 技術研究会で進捗状況を報告 5/17NPO 法人菜の花の代表へ相談、放課後児童クラブの責任者を紹介 5/24 名古屋市住宅都市局から依頼を受け、かぐてんぼう隊の活動、防災教育cp等を説明		
6月	6/1 教育委員会・住宅都市局の担当者で面談し、主旨を説明 6/11 名古屋市立小学校の校長及び6年担当教員と面談し、主旨を説明 6/14 推進連絡会で活動内容を連絡・相談 6/19 住宅都市局が「神戸市すまいの安心支援センター」を紹介		
7月	7/6 名古屋市総務局総合調整室部長、住宅局、消防局の担当者と打合せ 7/11 技術研究会で活動内容について連絡・相談 7/中旬、学童保育の責任者と講座内容等の打合せ ※7月末には、授業計画書(案)の内容を固めた	7/5 名大教育学部附属中高校の副校長から担当教員を紹介 7/5・9 市立小学校の関係者へ授業計画書(案)の相談	
8月	講師を依頼	教材等の購入及び準備	8/9 神戸市へ視察 8/27 学童保育にて、出前講座を実施
9月	9/12 技術研究会で、障害者就労支援施設製作のベルト活用の報告・連絡	高校生向けのアンケートを作成、集計	9/13 名古屋市立小学校(6年生)に出前授業を実施 9/21・25・26 名大教育学部附属中・高校(高校2年生)に出前授業を実施
10月	10/3 障害者就労支援施設の施設長と面談 10/5 中間発表のため映像記録を編集		10/15 障害者就労支援施設にてベルト製作の様子をビデオ撮影
11月	11/26 支援施設製作のベルトを使った家具の固定作業をビデオ撮影。 後日、施設にて映写会を開く予定 11/24 学童保育主催の「こども応援PJ①」に参加		
12月	「かぐてんぼう隊修了証」を作成		12/18 学童保育での受講者に、「かぐてんぼう隊修了証」を授与
1月	次年度に向けての準備		1/6 学童保育主催の「こども応援PJ②」に参加

注1:家具等転倒防止対策・推進連絡会(偶数月の第二木曜日に開催)

注2:家具等転倒防止対策・技術研究会(奇数月の第一水曜日に開催)

11. 協力者・団体

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	名古屋市教育委員会 名古屋市立小学校 名古屋大学教育学部附属中学・高等学校	協力
保護者・ PTAの組織	名古屋大学教育学部附属中学・高等学校 PTA 研修委員長	協力
地域組織	中村災害ボランティアネットワーク 防災ボラネット守山 名東区耐震化アドバイザー協会 あいち防災リーダー会	協力
国・地方公共団体・ 公共施設	名古屋市総務課総合調整室 名古屋市住宅都市局 名古屋市消防局 名古屋市住宅供給公社 神戸市すまいの安心支援センター	協力
企業・ 産業関連の組合等	増改築相談員瑞穂支部（福祉住研） 愛知県増改築相談員連絡協議会	協力
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	NPO 法人菜の花 NPO 法人藤森福祉会	協力
職業・職能団体・ 学術組織、学会等	愛知県建築士会 福祉住環境コーディネーター協会 職業（大工、サッシ屋、看板屋等）	協力